

科目名				授業の種類		授業担当者	
保育原理				講義		下平正恵	
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修		
1	2	30	15	前期	幼免：選択	保育士：必修	
〔授業の目的・ねらい〕							
時代のニーズに適した保育として、何を求められ、何を指して行けば良いのかを自ら追及し続けるために、保育実践を支える保育原理について深く考究し、理解する。							
〔授業全体の内容と概要〕							
保育の原理原則、保育の根幹を学び、保育者の役割と使命について理解する。 諸国における保育思想や保育施設の誕生や発展の経緯、わが国における保育思想や保育施設の誕生や発展の経緯を理解する。これらを通して、保育の基本となる子どもの捉え方や保育施設の必要性について学ぶ。							
〔受講上の注意事項〕							
実践的な内容である他の科目や学外における様々な実習経験と関連づけながら、本科目で学ぶ内容と相互補完を意識して、自分なりに保育についての理解を深めるよう意識すること。							
〔使用テキスト〕				〔評価基準〕			
基本保育シリーズ1 第2版 保育原理 出版：中央法規				試験・提出物80%、授業態度20%			
〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕							
回	項目			授業内容			
1	オリエンテーション 保育の理念と概念			保育の根幹・意義や役割を理解し、理念や概念を知る。			
2	保育の社会的役割と責任			保育所等に求められる社会的責任について学ぶ。			
3	保育の制度的位置づけ			子ども・子育て支援新制度について理解を深め、現代の支援の内容について考える。			
4	保育所保育指針に基づく保育			保育指針の改定内容やその趣旨について具体的に学ぶ。			
5	3歳児未満の保育			3歳未満児の発達過程や保育の基本をふまえ、保育の内容を理解する。			
6	3歳児以上児の保育			3歳以上発達過程や保育の基本をふまえ、保育の内容を理解する。			
7	子育て支援と家庭との連携			保護者への支援や、地域の専門機関や支援団体との連携について学ぶ。			
8	保育の目標と方法			保育所保育指針を手がかりに、保育の目標と方法について理解を深める。			
9	保育の計画・実践および評価			保育の計画におけるしくみについて学ぶ。			
10	諸外国の保育の思想と歴史①			近代以前の子育てや近代初期の保育思想を学習する。			
11	諸外国の保育の思想と歴史②			イギリス・ドイツ・アメリカの近代以降の保育の歴史をふまえ、世界的に広まった児童中心主義の思想を学習する。			
12	日本の保育の思想と歴史①			日本の教育の思想と歴史・子育ての思想・施設保育の始まりを学ぶ。			
13	日本の保育の思想と歴史②			戦前戦後の日本の保育を学び、現在の保育と未来の保育を考える。			
14	諸外国の保育の現状と課題			諸外国の保育の原理原則を理解し、広い視野で課題について考える。			
15	試験			まとめ			

実務教員としての経歴	保育所にて保育士として5年(そのうち1年副主任)勤務
実務経験と授業の関連	保育者の経験を活かし保育者を目指す学生たちに保育の原理原則、保育と保育者の役割を伝える。